

第6回島田市総合計画審議会 会議要録

1 日時

令和3年10月19日（火）19：00～20：37

2 場所

島田市役所 4階 第三委員会室南・北

3 出席者

委員：池上委員（会長）、村田委員（副会長）、磯崎委員、大池委員、小栗委員、河村委員、北川委員、クラーク委員、鈴木(史)委員、鈴木(将)委員、中根委員、萩原委員、原委員、松本委員、渡瀬委員

市側：牛尾副市長

事務局：今村市長戦略部長、中村戦略推進課長、興津係長、中村主査、永田主事、酒井主事、榊原主事

傍聴者 2人

4 内容

（開会）

（会長あいさつ）

- ・前回私たちがここで集まったのが6月4日だった。それから4か月近い時間が流れて、今年度2回目の集まりとなる。前回集まった後に事務局が作業を進めていたため、4か月近い時間がかかった。
- ・今日は、総合計画の案について、大きな構成がどうなっているか、重点的な目標として挙がっている3つのキーワードについて皆さんと意見交換をし、柱・大枠を確認して組んでいく非常に重要な会議と思う。
- ・島田はすごく突き抜けていて、もう20世紀のような、昭和のような時代ではないということの大前提にしてこれからの未来を考えていこうという、先取りをした総合計画が今回案として皆さんに提示されている。そのあり方について、今日意見交換できればと思っている。

（議題）

会長：今日は議題が5つある。(1)後期基本計画の構成、(2)がその基本計画で示す重点事項について。ここが大事になる。

(3)施策と内容について、特に政策分野の6、7に焦点を絞って説明をいただいて議論する。

(4)めざそう値、これは目標値と書かれたり、KPIという言葉を使ったりするが、どういう目標を達成しようとして頑張るかということで「めざそう値」という言葉が出てきた。

そして(5)地域別まちづくりの方向性について、夏に行ったワークショップ等の結果を踏まえて方向性が示されるということになる。

(1) 後期基本計画の構成について

資料1に基づき、興津係長より説明

【質疑応答】

・なし

会 長：今ページが入っていないが、最終的にはページが入ることによろしいか。それでは、こういう構成でいくということをもととして次に入る。

(2) 後期基本計画で示す重点事項について

資料2に基づき、興津係長、酒井主事より説明

会 長：情報量の多い資料なので少し整理した上で、ディスカッションに入りたい。まず資料2-1、「未来につなぐ3大戦略」として循環型社会、縮充、DXという3つが挙げられる。この3つはすでに6月に確認をしているので、これが島田市として未来に向けて大事にしていきたい方向性ということになる。資料2-2は皆さん最近よく耳にするSDGs。企業だったり国だったり、色々なところで言っているが、島田の場合はどうなのかというのがこちら。この資料の重要なポイントは、今回私たちが検討している総合計画の各項目は、SDGsの17のゴールで言うとどれに相当するかを整理したという点にある。資料2-3は、政策の1から7までを、3つの「がんばるポイント」という視点で横串を刺したときに、どんな重点領域が出てくるかという見方である。政策分野は1の防災・福祉・健康から7の行財政までである。それに対して横串を刺して、暮らし・産業・ひとというポイントで見ている。

【質疑応答】

A 委 員：「未来につなぐ3大戦略」については分かりやすくまとまっている印象である。資料1、目次の「未来に向けて」の中の「2050年未来の島田市」というのは、具体的にどれに当たるのか。

また「がんばるポイント」について、暮らし・産業・ひとの順番で出てくるが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の順番は、「しごと」「ひと」「まち」であった気がする。そちらとリンクしなくていいのかと疑問に思った。

事 務 局：まず「2050年未来の島田市」については本日の資料にはなく、現在作成中。内容は、高校生と子育て世代のワークショップで出た意見を、絵を使って、2050年の未来の島田市を描いていくページを考えている。

2つ目の「がんばるポイント」の順番については、ご指摘の通り、まち・ひと・しごと創生総合戦略では「しごと」「ひと」「まち」の順番になっている。

やはり市民の方に安心して島田市に住み続けていただきたいということがいちばん強いので、「安全・安心で楽しく暮らせるまちを創る」を先頭に持ってきた。

A 委 員：ちゃんとした意図があって、方針が決まっていればそれで結構だと思う。

会 長：「2050年未来の島田市」は11月の会議に出てくるか。

事 務 局：11月の会議に出させていただきます。

B 委 員：まず、資料の2-3。「がんばるポイント」の中に書いてある内容は、この案でいくという内容か。

事 務 局：この案でいきたいというものだが、もしこういったところを頑張ってもらいたいというものがあればご意見をいただきたい。

B 委 員：特に力を入れて取り組む施策と書いてあるので、本冊の施策の項目をそのまま引っ張ってきているのかなと思ったが、そうではない。

本冊を見ると施策の柱があり、その中にある1、2が施策ということだと思う。その中で特に重点的に頑張るものを「がんばるポイント」の項目として入れていると思ったが、文章が一致していない。少し書き方を変えたり、まとまったりしているのか分からないが、どのように理解すればよいか。

事 務 局：行政の取り組みを体系的に表す中で、政策・施策・事業という言葉があろうかと思う。「がんばるポイント」で載せようとしているものは、事業よりもう少し大きなかたまりである。ただ、本冊の中の施策の柱や小柱よりは少し小さく、その中の一部というようなイメージで使っている。同じ「施策」という言葉になっているので分かりにくいということだと思う。

B 委 員：この「施策」と、中に書いてある「事業」の中間くらいのものだと理解した。

C 委 員：9月中旬に都市基盤部の都市政策課から、島田市立地適正化計画策定という説明会があった。それとこの総合計画との関係、どのような関わりになっているか教えてほしい。

事 務 局：まず資料2-3、「がんばるポイント」のページでは、「コンパクト・プラス・ネットワーク」や「歩きたくなるまちなかづくり」、いわゆる中心市街地の活用が、立地適正化計画とリンクしてくる。

また、この後ご審議いただく資料3の政策分野6、施策の柱6-1に「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進します」、いわゆる拠点への集約に係る施策がある。

(3) 後期基本計画の施策と内容について（政策分野6、7）

資料3に基づき、中村主査より説明

【質疑応答】

会 長：今日は政策6と7、それぞれ都市基盤と行財政に関する内容である。

前回の資料と見比べるとレイアウトがずいぶん見やすくなったことに皆さんお気づきだと思う。この後最終的なレイアウトの調整をすることなので、今日はレイアウト、見た目というよりも、中身についてご質問、ご意見をいただければと思う。

事務局から、皆様のご意見をぜひ伺いたいというポイントについてはどうか。

- 事務局：政策分野7の2-5「デジタルの恩恵をすべての市民に届けます」、いわゆるDXの推進に係るページになっている。前期計画にはない施策なのでご意見をお願いしたい。
- 会長：最近ではどの自治体のものでもDXという言葉が出てきて、デジタル設備を整える、デジタル環境を整える、デジタル担当部署を設けるといった話になってしまう。ただ本来的には、DXというのはデジタルが実現した上で私たちはどんな未来を構想するのかということ。そこまでここには書き込まれていないが、デジタルの恩恵を島田の市民皆が、誰一人取り残すことなく享受できるようにというポイントである。
- A 委員：3大戦略の3番にDXがある。3大戦略の取り組みの方針に挙げた①～④と7-2-5の主要な取り組みの事例の言葉が少し違う、ぴったりと当てはまるものがないような気がするが、その辺の検討はいかがか。
- 事務局：ご指摘の通り、資料2-1にある3大戦略で使っている表現と、本編の施策のタイトルなどが一致していないことは確かである。
重なる内容としては、資料2-1、「未来につなぐ3大戦略」のDXの④「業務のデジタル化の推進や多様なデータを活用し、市民サービスの提供など行政経営をスマートにします」が市の行政経営のやり方・あり方になっている。
あわせて本編の方では、デジタルリテラシーの向上のことも書いているので、3大戦略の②の「誰もがデジタルの恩恵を受けられるように、世代や地域の格差の解消を図ります」も含まれている。
- A 委員：見ていくとそこに当てはまることは分かるが、例えば7-2-5の上の言葉の中で、もう少し関連が分かるような表現は考えられないか。
- 事務局：7-2-5については少し工夫してみたいと思う。
もう1点、この資料3の3-2-2で「デジタルを活用して地域産業を盛り上げます」として産業のDXのことを書いている。これが資料2-1のDXの③、「商工業や農業観光などあらゆる分野の産業DXを支援します」と関係する。3大戦略は色々なところに関わっており、一つひとつを捉えるとぴったりではないが、関わりを持つようにして作っている。言葉については全体的にもう少し整理したい。
- D 委員：6-1の「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」の方向性について、川根、伊久身は該当しない。該当地域に集約されていく、力点を置いて施策を進めていくことを考えた時に、川根等に住んでいる人にとっては不安をもつのが正直なところではないかと思う。
施策と内容の中に「緩やかに集約・誘導していく」とある。緩やかにという言葉を使ったことで、その事業が早急に進むものではないと少し安心感はあるが、中山間地の川根や伊久身が持っている位置づけ、意味づけは何になるのだろう。川根の人たちは皆川根が大好きで、ずっと住み続けたいと思っているし、川根の地域は川根で守っていこうという気持ちが強く、自分たちでできることは自

分たちでやろうという方向で進んでいる。

ただ、行政にお願いしたいところはたくさんあって、行政が力を貸してくれることもすごく実感している。そういう中で、中山間地についての部分が、このコンパクトシティが強調されることで不安を持たれてしまうのではないか。これについての説明会が行われていると思うが、該当地域の説明会があっても該当しない地域は何も知らされていない。このコンパクト・プラス・ネットワークが必要であることは分かるが、心配な部分もある。

事務局：すごく大事なお話をいただいた。今、立地適正化計画の中で説明させていただいているものは、市全体ではなく、「都市計画区域」の中でどのようにまちづくりをしていくのかということ。都市計画区域なので川根が入っておらず、川根にその説明会が行っていないということかと思う。

コンパクト・プラス・ネットワークについては、島田市全体のこととして考えていくので、川根も含めてまちづくりをしていくという考え方になる。都市計画マスタープランという、都市計画をどう描いていくのかというものの中に、コンパクト・プラス・ネットワークが入っていて、川根も含まれている。さらにそれよりも小さなエリアの中で立地適正化計画というものが語られており、少し計画が複雑になっているため、分かりにくい面があったかと思う。コンパクト・プラス・ネットワークは川根も入っているということでご理解いただきたい。

資料3の5-3-3に、「中山間地域での豊かな暮らしを応援します」という施策がある。これは前期の計画にはなく、後期で新しく立てたものになる。

ご心配されているように、コンパクト・プラス・ネットワークという言葉が出たり、だんだんと誘導していったりということが見える部分もあろうかと思うが、やはり今暮らしている地域での暮らしというのはすごく大事なこと。また、それぞれの地域で皆さん力強いまちづくりをされている。今回、後期計画の中には中山間地域での暮らしというものを個別に立てさせていただいた。このような考え方で進めている。

(4) 後期基本計画における「めざそう値」について

資料4に基づき、興津係長より説明

【質疑応答】

会長：「基準値以上」というものがあるが、これはファイナルアンサーでこう書いてあるのか、あるいは今検討中なのでとりあえず基準値以上という言葉で表現しているのか。

事務局：会長の言葉を借りればファイナルアンサーということになる。

例えば政策分野2の2-3には「基準値以上」が並んでいる。その左の「基準値」を見ていただくと、比較的数値の高いものが基準値となっている。ここで満足しているというものではないが、毎年基準値以上を目指していきましょうという意味でこの表現にしている。

- B 委員：みんなでめざそう値には、市民意識調査の数字が多い。例えば政策分野2の「保育環境の充実や子育てへの支援」の満足度については、基準値61.7%に対し目標値が65%となっているが、65%と設定した理由は何か。
- 事務局：目標値の設定については、市民意識調査を基準値とするものは、過去3年間の実績を並べてどのように推移しているかを確認し、そこからどのくらいまで上げていけるのかを、それぞれの担当部署で考えている。
- B 委員：なかなかその辺が見えにくく、なぜその%なのかが少し分かりにくい。
例えば政策分野4の4-4、市民意識調査「住みごちがよい」と感じる市民の割合が89.5%から90%となっているが、5年間かけて0.5%上げるということ。先ほどの「基準値以上」でもいいのではないかと感じる。当然上がった方がいいが、なぜその%なのか。幅がないものもあるので、そういった理由のところはきちんとしておいた方がいいと思う。
また、この市民意識調査では、おそらくコンマ何%は誤差の範囲になってしまうと思う。それで毎年一喜一憂するのは少し大変かと。市民意識調査の結果を持ってくるのはいいと思うが、なかなか難しいところがあるのかなとも思う。
- 会長：数値の設定に関する根本的なご意見をいただいた。私の専門的な立場から言えば、母集団の設定の仕方をどうしているか。例えばある回、すごく高齢者の回答が多かった。逆にある地域の回答がすごく多かった。それをまとめて比較するのは本当に大丈夫か、など。色々と突っ込みだと技術的な問題が出てくる。
- 事務局：目標値の設定について今一度見直しをさせていただきたいと思う。
市民意識調査については、現在島田市は毎年2,500人の市民の方を対象に行っており、約4割の方から回答をいただいている。つまりおよそ1,000の方に回答いただいております、統計上も有意な回答数であると認識している。
また対象者の抽出についてはランダムに行っているが、各年齢層の偏りが出ないように抽出してアンケートをしている。
- 会長：地区の区分はどうか。
- 事務局：地区についても年齢と同じで、地域ごとの人数構成に応じて、アンケートを发出している。
- E 委員：政策分野5、5-2に「島田市の認知度」がある。また右側の5-3に「都市の魅力度」がある。634位とか576位の分母が分からない。市町全体がどのくらいあるのか。634位ということを示すべきなのか。例えば県内で何位とか、市民がパッと見て、静岡県で何位、東海圏で何位ぐらいの方がいいのかなという気がするがいかがか。
- 事務局：「都市の魅力度」の備考に、「地域ブランド調査（外部調査）都市の魅力度全国市町村順位」とある。こちらは民間の会社がインターネットを使って、全国のアンケート調査を行っているもの。全国の市町村順位となっているのでそれが分母になっている。全国の市町村の数は1,700ほど。
- 会長：その示し方について。その調査によっても、静岡県内の市町村の中で何番のような提示の仕方の方が分かりやすいのではないかと、ということ。

事務局：分母を全国・東海・県内のどれにするかについては、シティプロモーション・情報発信・移住関係人口の分野になるため、全国の方に島田市を知っていただきたい、来てほしいということで、全国を分母にしたいと考えている。

(5) 地域別まちづくりの方向性について

資料5に基づき、榊原主事より説明

【質疑応答】

会長：ワークショップの結果をもとに、地域ごとに見開きでまとめている。特に、「住民と市の役割」を、ワークショップの時の模造紙を使った作業をイメージしてまとめたというもの。

F 委員：以前のものより大変見やすくなった。ワークショップの結果ということで、市民の声や意見が入れられていて、大変分かりやすくなったと感じる。
ただ、「住民と市の役割」について、ワークショップで出たものと伺ったが、「市がすること」はワークショップで出たことを全てここに上げているのか、それとも総合計画の中で実施するという文言があるものを選んでしているのか。
もう1点、旧市内・大津地域の「市がすること」の中に、「通勤・通学に便利」と「統一ある景観の確保」があるが、それは市がどんなことをしようとしているのか。

事務局：まず1点目の「住民と市の役割」について、ワークショップの意見はあくまで参考としており、ワークショップであった意見を実際にそのまま書いているというわけではない。

その上の「まちづくりの方針」を進めていくにあたって、市がすべきこと、住民がすべきこと、協力してすべきことを考えながら、ワークショップの意見も参考にしながら作成したもの。

2点目の旧市内・大津地域の「通勤・通学に便利」と「統一された景観の確保」について具体的に市がどういったことをするのかということだが、まず「統一された景観の確保」については、市の都市政策課において景観の維持のために建物の高さの制限などの規制を行っている。それにより今の景観を崩さないように維持していきたいと考えている。

「通勤・通学に便利」については、「車がなくても生活できる」に近いところがあるが、ワークショップで多かった意見として、「歩いて生活できる」というものがあつた。市としては、島田駅もあるので、例えばバスなどの移動手段をつなげて通勤・通学をしやすいまち、住みやすい環境をつくるということを考えている。

会長：必ずしもワークショップで出た意見だけを書いているわけではない。だとすればなおのこと、その具体的な施策として本編に書き込むこととの整合性をしっかりと考えておかなければいけない。

G 委員：前期の計画だとどうしても意味合いが「行政が主体でこういう事業をやります」

という感じがするが、ワークショップをもとに住民が思っていることを表現してくれているので、すごく見やすくなったと思う。

「住民がすること」「市がすること」と書いてあるが、市にやってもらうという考え方よりも、あくまでも住民が主体となったまちづくりの方がいいと思う。例えば「住民の役割」「市のサポート」、市はあくまでもサポーター的な役割の方がまちづくりとしてはいいのかなと感じた。

会 長：市と住民の関係をどう考えているか、住民の方が主なのではないかということ。

G 委 員：市はあくまでもサポート的な、「こういうことを自分がやりたかったら、準備やサポートを市がするよ」という考え方の方がいいと思う。

事 務 局：こちらについては市の内部の会議でも意見が出ており、確かに今の表現「住民と市の役割」には少し固いイメージを持ちつつ、この案を作成したところであった。

おっしゃっていただいた案のように、「住民の役割」と「市のサポート」という表現も非常に素晴らしいと素直に感じたところである。

今の段階でどのように修正するかをこの場で回答することは難しいが、いただいたご意見も参考にしながら、庁内で意見を集めながら表現を検討したい。

会 長：まちづくりに関する基本的な姿勢をどう構えていくか。非常に根幹的なご指摘をいただいたと感じている。

H 委 員：「住民と市の役割」のところで、各地域で内容がかぶっているところがある。

「市と住民で協力すること」のところで「若者・子どもを増やす」、「子どもが増える」、「子どもを増やす」。おそらく一緒だと思うので統一してもいいのではないか。

初倉地域の「高齢者が暮らしやすい」、「多世代が暮らしやすい」はまとめてもいいのではないかと思う。

事 務 局：庁内の他部署からも同様の意見があり、一つの地域で見ていたものを横に並べて見るという視点が欠けていた。表現の方法は統一したいと考えている。

会 長：本日の取り上げた資料全体を通して何かあれば。

I 委 員：資料3の4-3、「水資源と水環境を守る」のところで、水質調査という説明があったが、工事によって水が枯れてしまったことがあった。工事業者の話では、どこも責任が取れないとのこと。責任をとってもらえるのは島田市なのか。リニアの件もあるので、工事で水が流れなくなってしまうことは大変なことだと思う。考えがあれば教えてほしい。

会 長：今の問題は、自然環境の保全、水資源の保全に取り組むこと自体に反対する人はいないのだが、そのプロセスで色々なことが起きて責任問題をどう考えるといいだろうかという質問である。

個別具体的な問題提起であるので、こんな方向で考えてみたいという声があれば聞いておきたい。

I 委員：水が流れるようにする工事で水圧が低くなってしまったらしく、神座地区の農業に影響が出た。これはリニアが通ったらどうなるか分からないと皆不安だと思う。水が枯れてしまうことは農家にとっては死活問題。島田市としてどういう考え方でやっていくのかを知りたい。

牛尾副市長：少々情報も不十分で、これが正しい答えかどうか分からないという前提の話になるが、知る範囲では、何年か前に神座地区で国土交通省が河川の護岸工事をしていたことがあり、川の中を乾いた状態にするために大井川の川底を深く掘り下げるなどして工事を実施したことがあると思う。その時に深く掘ったために河川の水が伏流水も含めてそちらへ集まってしまって、一時被害が出たということを知ったことがある。それ以上のこと、因果関係などは市の方も把握できていない。

一義的には原因を生じさせたところに責任があると思うが、その因果関係をどのように説明するかは、この場ではお話しできかねる。リニアに関しては今色々と意見を交わさせていただいているところであり、国の有識者会議でもご議論いただいている。

答えにはならないかもしれないが、神座地区のことであれば護岸工事が原因して水位が下がってしまったことがあるということだけは承知している。それ以降の状況確認はできていない。

I 委員：できればせめて、島田市の方からも何か対策等があれば話し合っていたきたい。国土交通省だけではない。

会長：「水資源と水環境を守る」という施策が読む人たちにどのように捉えられるかという点も意識しながら施策を考えていきたいと思う。

J 委員：10年先、20年先、2050年、未来を考えているという話であった。市の職員が考えている未来、私が考えている未来、他の皆さんが考えている未来、色々な未来がある。これからどういう時代をつくるか関心があり、情報を集めている。そうした中で、この文章にはならないが、未来のあり方や問題を皆で議論したほうが良いと思う。いちばん気になっているのは人口減少問題。地域に外国の方が増えた場合のコミュニティのあり方などについても頭に入れておくべきと思う。

会長：どんな未来像を皆さんが考えるかということについては、次回の「2050年未来の島田市」の資料の時にご意見をいただければありがたいと思う。

C 委員：めざそう値について、設問に対する数値がそれぞれ出ている。全体指標については75.9%、4分の3の数値が出ているが、残りの4分の1の方の気持ち、少数意見にもっと多くのことが含まれているのではないかと。めざそう値の数値に注目するだけでなく、少数意見の方も掘り下げてみていただきたい。

また、今まで島田市に住んでいたが市外・県外に出られた方。そういう人たちの離れてからの島田市をどのように感じるかを評価として表現することもいい

のではないかと思う。

会 長：今回の積算根拠になっているデータに表れない人たちの声を加味してもう少し考えてみるといいのではないかという御意見。また転出した人たちがどのように島田市のことを見ているか。こういう視点も大事ではないかということ。私の大学の教員が、北遠地区からの転出者にアンケート調査を実施したところ、結構な数が「帰りたいと思っている」という回答であったとのこと。転出者について聞いてみる方法はないだろうか。転出者の意見は大事だと思う。今まで行政の計画を立てる時に、転出者の声を体系的に取ってそれに基づいたということ聞いたことがない。できる範囲だが、試してみる価値はあると思う。

(その他)

(1) 次回総合計画審議会の開催について

中村主査より連絡

【質疑応答】

・なし

以上

20：37会議終了